

グリーンボンド / グリーンボンド・プログラム 外部レビューフォーム

セクション1. 基本情報

発行体名:	大和エネルギー・インフラ株式会社
グリーンボンド又は フレームワークの名称	ダイワ・グリーンファイナンス・プログラム 信託受益権
外部レビュー者名:	株式会社 日本格付研究所
本フォーム記入日:	2020年1月29日
レビュー公表日:	2020年1月29日

セクション 2. レビューの概要

レビュー対象

本レビューでは、以下の要素について審査し、グリーンボンド原則との適合性を確認した。:

- | | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 資金使途 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの評価と選定プロセス |
| <input checked="" type="checkbox"/> 資金管理 | <input checked="" type="checkbox"/> レポーティング |

ROLE(S) OF Independent External REVIEW PROVIDER

- | | |
|------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> セカンドオピニオン | <input type="checkbox"/> 認証 |
| <input type="checkbox"/> 検証 | <input checked="" type="checkbox"/> スコアリング/格付け |
| <input type="checkbox"/> その他: | |

注:複数のレビュー、異なる提供者がいる場合、レビューごとに個別のレビューフォームを提供してください。

レビューのサマリー 及び 評価レポート全文へのURLリンク

大和エネルギー・インフラ株式会社は、株式会社大和証券グループ本社100%出資の子会社であり、SDGs×テクノロジーの観点に基づいたエネルギーへの投融資推進による未来社会創造の支援を目的として発足した。大和エネルギー・インフラは大和PIパートナーズのエネルギー投資部門を前身として2018年に営業を開始しており、再生可能エネルギー、インフラストラクチャーおよび資源分野への投融資を通じた「新たな価値」の提供とSDGsへの貢献を目指している。大和エネルギー・インフラは投資残高の約5割（2019年9月現在）を国内外の太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギーに投資しており、同分野への積極的な投資姿勢を今後も継続する予定である。現在までに開発・投資を行った太陽光発電所は合計約103MW、バイオマス発電所は合計約13MWに及ぶとともに、完工済の再生可能エネルギープロジェクトはすべて安定稼働しており、再生可能エネルギーを通じた環境に対する取り組みは着実に実行されている。

今般の評価対象は、太陽光発電設備の取得資金に対する貸付を裏付けにした信託受益権（本信託受益権）である。同太陽光発電設備は、大和エネルギー・インフラが開発した複数の太陽光発電設備を合同会社北海道分散型電源普及プラットフォーム（仮称）（プロジェクトGK）が取得するものである。大和エネルギー・インフラはプロジェクトGKのスポンサーであるとともに、匿名組合出資を行う。プロジェクトGKは本信託受益権の受託者である日立キャピタル信託株式会社からの貸付および匿名組合出資による資金調達を行い、太陽光発電設備を取得する。日立キャピタル信託からの貸付は、金銭信託によって調達した資金を原資として行われる。日立キャピタル信託からプロジェクトGKへの貸付実行にあたっては、諸契約の締結等が停止条件となっている。融資期間中は、太陽光発電設備の売電収入を原資とし、信託契約によってあらかじめ決められた方法によって、受益者への元本償還および配当支払が行われる。

JCRは本信託受益権の発行代わり金の資金使途の100%が太陽光発電設備の取得資金に充当される予定であること、および同太陽光発電設備の年間CO2排出削減量が9,214 t-CO2/年の見込みであることを確認した。また、大和エネルギー・インフラが事業実施に際して想定され得る環境への負の影響に対し、社内の担当部署および外部の第三者機関のもとで影響を把握し、必要な回避・緩和措置を講じていることを確認した。以上より、JCRは本信託受益権が環境改善効果の高いグリーンプロジェクトを対象としていると評価している。

JCRは調達資金の管理について、資金の充当計画が策定されており調達資金がグリーンプロジェクトに確実に充当されること、追跡管理が実施されること、未充当資金の運用についても特段の懸念がないことから、本信託受益権に関する管理運営体制が確立されていると評価している。また、資金充当状況および環境改善効果にかかるレポート内容についても適切なものとなっていることから、本信託受益権が投資家に対する透明性を有するものであると評価している。

以上より、本信託受益権についてJCRグリーンファイナンス評価手法に基づき、「グリーン性（資金使途）予備評価」を“g1”、「管理・運営・透明性予備評価」を“m1”とした。この結果、「JCRグリーンボンド予備評価」を“Green 1”とした。

本信託受益権はグリーンボンド原則 および環境省によるグリーンボンドガイドライン において求められる項目について基準を満たしていると考えられる。

評価レポート全文へのURLリンクは以下をご参照。

<https://www.jcr.co.jp/greenfinance/>

セクション 3. レビューの詳細

レビュー者は、できる限り以下の情報を、コメントの枠を使用し、できる限り提供することが推奨される。

1. 資金使途

本項目に係るコメント欄：

a. プロジェクトの環境改善効果について

i. 資金使途の100%が太陽光発電設備の取得資金であり、環境改善効果が高い。

ii. 資金使途は、グリーンボンド原則または環境省のグリーンボンドガイドラインに定義されているグリーンプロジェクトのうち、再生可能エネルギーに該当する。

b. 環境に対する負の影響について

大和エネルギー・インフラでは、グリーンボンドの対象となるプロジェクトの選定にあたり、環境に対する負の影響を及ぼすリスクを想定し、外部機関による技術デューデリジェンス報告書などを通じて事前調査を行っている。また、プロジェクト選定にあたっては太陽光発電設備の設置によるCO2排出削減量が、用地整備によって減少するCO2排出削減量を上回ることを確認している。以上から、JCRは大和エネルギー・インフラが環境に対する負の影響について、社内の担当部署および外部の第三者機関のもとで影響を把握し、必要な回避・緩和措置を講じていると評価している。

GBPにおける資金使途の分類：

- | | |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 再生可能エネルギー | <input type="checkbox"/> エネルギー効率 |
| <input type="checkbox"/> 汚染防止及び管理 | <input type="checkbox"/> 生物自然資源及び土地利用に係る環境持続型管理 |
| <input type="checkbox"/> 陸上及び水生生物の多様性の保全 | <input type="checkbox"/> グリーン輸送 |
| <input type="checkbox"/> 持続可能な水資源および廃水管理 | <input type="checkbox"/> 気候変動への対応 |
| <input type="checkbox"/> 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術及びプロセス | <input type="checkbox"/> グリーンビルディング |
| <input type="checkbox"/> 発行時点では明らかでなかったが、現時点においてGBP分類に該当することが予想される、または、まだGBP分類に含まれていないが適格グリーンプロジェクト分野と思われるもの | <input type="checkbox"/> その他 |

GBP以外のタクソノミー(プロジェクト分類)を使用している場合はそれを特定すること。:

2. プロジェクトの評価と選定プロセス

本項目に係るコメント欄：

発行体は資金使途について、明確な環境面での目標、プロジェクトの選定基準およびプロセスを定めている。当該事項は、JCRによる評価レポートの中で開示されている。

評価と選定

- | | |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 発行体の環境面での持続可能性に係る目標が定められている | <input checked="" type="checkbox"/> 対象事業が選定基準分類に適合していることを決定するプロセスが文書化されている |
| <input checked="" type="checkbox"/> グリーンボンドの資金使途としての適格プロジェクト基準が定義され、透明性が確保されている | <input checked="" type="checkbox"/> 事業実施に伴うESGリスクの可能性が特定され、管理されるプロセスが文書化されている |
| <input checked="" type="checkbox"/> 事業の評価と選定基準の概要が公表されている | <input type="checkbox"/> その他 |

責任及びアカウンタビリティに係る情報

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 評価・選定基準は外部からのアドバイスまたは検証を受けている | <input checked="" type="checkbox"/> 社内で評価している |
| <input type="checkbox"/> その他 | |

3. 調達資金の管理

本項目に係るコメント欄：

本信託受益権の発行代わり金は、全額が日立キャピタル信託からプロジェクトGKへの融資に一括で充当される。当該融資は信託契約および金銭消費貸借契約に従い、本発電設備の取得資金に充当される。未充当資金（プロジェクトGKへの融資未実行資金）については、信託口座において現金または現金同等物として管理される。

融資に関する資金の追跡管理はプロジェクトGKからの提出書類等をもとに日立キャピタル信託が行う。本信託受益権が償還されるまでの間の資金管理は諸契約で定められており、信託財産の管理状況は定期的に投資家に報告されることが予定されている。これより、資金管理に関して統制が働いていると考えられる。

調達資金の追跡管理：

- | |
|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> グリーンボンドの調達資金は分別管理され、または適切な方法で発行体によって追跡管理されている。 |
| <input type="checkbox"/> 未充当資金の一時的運用方法について、開示されている。 |
| <input type="checkbox"/> その他 |

追加開示事項：

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 新規投資への充当のみ | <input type="checkbox"/> 既存・新規投資両方への充当 |
| <input type="checkbox"/> 個別の支出に充当 | <input type="checkbox"/> ポートフォリオベースの支出に充当 |
| <input type="checkbox"/> 未充当資金のポートフォリオバランスを開示 | <input checked="" type="checkbox"/> その他
既存投資への充当のみ |

4. レポーティング

本項目に係るコメント欄：

a. 資金の充当状況に係るレポーティング

本信託受益権における資金の充当状況は、日立キャピタル信託が交付する信託財産状況報告書によって半年毎にレポーティングが行われる予定である。なお、発行代わり金の全額がプロジェクトGKへの融資を通じて本発電設備の取得資金に一括で充当されること、および本発電設備の滅失・売却時には借入金の期限前返済が行われ、同額が本信託受益権の償還に充当される予定であることから、本信託受益権に関して未充当資金は発生しない。

b. 環境改善効果に係るレポーティング

本信託受益権における環境改善効果は、予め定められた内容を投資家向けにレポーティングすることが予定されている。

本信託受益権に関するレポーティングについて、資金の充当状況および環境改善効果の両方に関し、投資家に対して詳細かつ実効性のある形で開示される計画であり、透明性が高いと評価している。

資金使途のレポーティング：

個別プロジェクト・ベース

プロジェクトのポートフォリオ・ベース

個別債券への紐づけ

その他

レポーティング情報：

充当金額

投資額に占めるグリーンボンドによる資金充当の割合

その他：

頻度：

年に一度

半年に一度

その他：

インパクトレポーティング：

個別プロジェクト・ベース

プロジェクトのポートフォリオ・ベース

個別債券への紐づけ

その他

頻度：

年に一度

半年に一度

その他：

レポーティング情報（理論値または実績値）：

GHG 排出量 / 削減量

エネルギー削減量

水使用削減量

その他ESG指標
発電量

開示方法

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 財務諸表における公表 | <input type="checkbox"/> サステナビリティレポートにおける公表 |
| <input type="checkbox"/> アドホック（非定期）刊行物における公表 | <input checked="" type="checkbox"/> その他：
ウェブサイトにおける公表 |
| <input type="checkbox"/> レポートの外部レビュー
資金充当状況及びインパクトレポートが外部レ
ビュー対象 | |

有用なリンク

大和証券グループ本社（親会社）のSDGsに係る取り 組み	http://www.daiwa-grp.jp/csr/
JCRのグリーンファイナンス評価手法	https://www.jcr.co.jp/greenfinance/

外部レビューを受けた場合、その種類

- | | |
|-------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> セカンド・オピニオン | <input type="checkbox"/> 認証 |
| <input type="checkbox"/> 検証 | <input checked="" type="checkbox"/> スコアリング/格付け |
| <input type="checkbox"/> その他: | |

レビュー提供者: 株式会社 日本格付研究所

公表日: 2020年1月29日

グリーンボンド原則に定められた、独立レビュー業者の役割

1. **セカンド・パーティ・オピニオン**：環境に関する専門知識を持ち、発行体から独立した機関は、セカンド・パーティ・オピニオンを出すことができる。そのような機関は、グリーンボンドフレームワークに関する発行体のアドバイザーからの独立性や、情報障壁など適切な手順を機関内に設け、セカンド・パーティ・オピニオンの独立性を保証することが必要である。セカンド・パーティ・オピニオンは通常グリーンボンド原則への準拠に関する評価を伴い、特に、発行体の包括的な目標、戦略、環境に関する持続可能性に関する方針および（または）プロセスおよび資金使途となるプロジェクトの環境に関する持続可能性の評価が含まれる。
2. **検証**：発行体は、ビジネスプロセスに関するおよび（または）環境基準についての設定された基準に関する第三者検証を受けることができる。検証は内部または外部基準または発行体による目標に沿っているかにフォーカスする。また、対象資産の環境に関する持続可能な特徴の評価は"検証"と呼ばれ、外部基準を参照することができる。発行体の資金管理、グリーンボンドによる調達資金の配分に関する内部追跡システム、環境へのインパクトまたは、グリーンボンド原則への準拠に関する保証または証明も"検証"と呼ぶことができる。
3. **認証**：発行体は、グリーンボンドフレームワークに関連したグリーンボンドまたは資金使途は、認識されている外部グリーン標準・ラベルの認証を受けることができる。標準またはラベルは、特定の基準を定義し、その定義は認証基準に沿っているかを証明できる能力を有し、認定された第三者機関によって、その基準に沿っているかどうかを検査される。
4. **グリーンボンドスコアリング・レーティング**：発行体は、グリーンボンドフレームワークに関連したグリーンボンドまたは資金使途は、スコアリング・レーティング手法を有している専門調査会社や格付機関といった第三者によって評価もしくは調査されることことができる。成果物は、環境改善のデータ、グリーンボンド原則に準じたプロセスまたはその他2度目標などのベンチマークにフォーカスしたものが考えられる。スコアリング・レーティングは、重要な環境リスクを反映しているとしても信用格付とは明確に異なる。